

奥多摩町で駆除された野生シカの E 型肝炎ウイルス等保有状況調査 (平成 17 年度実施結果)

1 目的

E 型肝炎は、E 型肝炎ウイルスの経口感染により引き起こされる急性肝炎で、主に海外渡航者で感染が報告されていたが、1990 年以降、国内で渡航経験のないヒトの発症例が相次いでいる。原因としては、イノシシ、シカなど野生動物の肉等や豚レバーの生食もしくは加熱不足が強く疑われている。

このため、都では、平成 15 年度及び 16 年度に市販されている豚レバーの HEV 遺伝子の保有実態及び HEV 感染履歴の調査を、平成 16 年度には、奥多摩町の野生鹿を対象に HEV 保有状況調査を実施している。

平成 17 年度は、野生鹿について、引き続きデータの蓄積を図った。

2 実施機関

(1) 検体収集等

東京都西多摩保健所

(2) 試験検査

東京都健康安全研究センター微生物部

(3) 野生シカの駆除実施主体

奥多摩町観光産業課

3 調査期間

平成 17 年 11 月

4 検査対象品目及び検査項目

(1) 肝臓及び血液 (各 30 検体)

E 型肝炎ウイルス (PCR 法による遺伝子の検出及び ELISA 法による抗体の検出)

(2) 腸内容物 (28 検体)

ア 食中毒起因菌 (腸管出血性大腸菌 O157、サルモネラ、カンピロバクター)

イ 原虫類 (クリプトスポリジウム、ジアルジア)

5 調査結果

(1) HEV 検査

・肝臓、血液各 30 検体について RT-PCR 法で遺伝子の検査を行った結果、いずれからも検出されなかった。

・ELISA 法による HEV 抗体検査の結果、肝臓、血液とも 30 検体中 3 検体が陽性 (陽性率 10%) となり、1、2 年以内に HEV に感染していたことが示唆された。(陽性となった肝臓と血液は同一固体のもの)

(2) 食中毒起因菌検査および原虫類検査

腸内容物 28 検体について検査を行った結果、いずれからも検出されなかった。

これまで都が実施した E 型肝炎ウイルス (HEV) 等保有状況調査のまとめ

1 都内流通食肉における HEV 保有状況調査

(1) 調査機関

- ア 調査主体
東京都健康安全研究センター広域監視部
- イ 試験検査
東京都健康安全研究センター微生物部

(2) 調査期間

平成 15 年 7 月から平成 17 年 3 月まで

(3) 調査対象品目

市販豚レバー 471 検体 (HEV 抗体検査についてはドリップ 461 検体)

(4) 検査項目及び結果

- ア PCR 法 (nested-PCR および real-time PCR) による HEV 遺伝子の検出
都内仕入先等を通じてと畜場が確認できた豚レバー471 検体について PCR 検査を行った結果、いずれからも HEV 遺伝子は検出されなかった。
- イ ELISA 法による HEV 抗体の検出
461 検体について HEV 抗体検査を行った結果、160 検体が陽性となり、34.7%の豚に感染履歴があることが示唆された。

2 野生ニホンジカの HEV 等保有状況調査

(1) 調査機関

- ア 検体収集等
東京都西多摩保健所、東京都健康安全研究センター広域監視部
- イ 試験検査
東京都健康安全研究センター微生物部
- ウ 野生シカの駆除実施主体
奥多摩町観光産業課

(2) 調査期間

- ア 冬期 平成 16 年 11 月から平成 17 年 1 月まで
- イ 春期 平成 17 年 5 月から平成 17 年 6 月まで
- ウ 夏期 平成 17 年 9 月
- エ 秋期 平成 17 年 11 月

(3) 調査対象品目

- | | | | |
|------|-------------|-------------|---------------|
| ア 冬期 | 血液 (28 頭分) | 肝臓 (29 頭分) | 腸内容物 (24 頭分) |
| イ 春期 | 血液 (31 頭分) | 肝臓 (30 頭分) | 腸内容物 (31 頭分) |
| ウ 夏期 | 血液 (30 頭分) | 肝臓 (29 頭分) | 腸内容物 (30 頭分) |
| エ 秋期 | 血液 (30 頭分) | 肝臓 (30 頭分) | 腸内容物 (28 頭分) |
| 計 | 血液 (119 頭分) | 肝臓 (118 頭分) | 腸内容物 (113 頭分) |

(4) 検査項目

- ア HEV (PCR 法による遺伝子の検出及び ELISA 法による抗体の検出)
血液、肝臓を対象に実施
- イ 食中毒起因菌 (O157、サルモネラ、カンピロバクター) 及び原虫類 (クリプトスポリジウム、ジアルジア)
腸内容物を対象に実施

(5) 調査結果

- ア HEV (PCR 法による遺伝子の検出及び ELISA 法による抗体の検出)
PCR 法による検査の結果、すべての検体から HEV 遺伝子は検出されなかった。また、ELISA 法による検査の結果、血液では 119 検体中 17 検体が陽性、肝臓では 118 検体中 13 検体が陽性となり、全体で約 14% の個体に感染履歴があることが示唆された。

表 季節別検査結果

検査項目	HEV 抗体検査 (ELISA 法)		HEV 遺伝子検査 (PCR 法)	
	血液	肝臓	血液	肝臓
冬期	4 / 28 (14.3%)	0 / 29	0 / 28	0 / 29
春期	5 / 31 (16.1%)	5 / 30 (16.7%)	0 / 31	0 / 30
夏期	5 / 30 (16.7%)	5 / 29 (17.2%)	0 / 30	0 / 29
秋期	3 / 30 (10.0%)	3 / 30 (10.0%)	0 / 30	0 / 30
陽性個体数計	17 / 119 (14.3%)		0 / 119	

肝臓が陽性であった個体は血液もすべて陽性であった。

- イ 食中毒起因菌 (O157、サルモネラ、カンピロバクター) 及び原虫類 (クリプトスポリジウム、ジアルジア)
いずれからも検出されなかった。